

槍ヶ岳山行報告

期 日 平成 22 年 4 月 30 日（金）～5 月 3 日（月）

場 所 蒲田川右俣谷・飛騨沢から槍ヶ岳

参加者 L 鳥切昇治(69 歳)・大和義孝(73 歳)・横山高明 (71 歳)

記録 横山高明

現役が北鎌尾根の登攀を計画し、OB も槍への山行を 4 月 30 日出発 5 月 4 日下山の 4 泊 5 日（予備 1 日含む）で計画した。

ルートを上高地と新穂高どちらを選択するか検討の末、アプローチの短さから、新穂高温泉より入山し、槍平小屋付近にテントを張り、下山後平湯温泉で休憩し帰宅する予定である。

4 月 30 日（金） 晴

行動 （鳥切車で）鳥切宅 8:30＝大和宅 8:43＝9:50 小田急本厚木駅南口

9:55＝中央道相模湖 IC 11:05＝12:30 諏訪湖 SA 13:10＝長野道

松本 IC 13:30＝15:00 新穂高温泉 15:45＝15:50 中尾温泉民宿たきざわ（泊）

ゴールデンウィークの、天気予報は晴マークの日が続く、好天を期待して、

鳥切さんのくるまで中央道、安房トンネル経由新穂高温泉へ、

この時期には珍しく中央道からは雪を頂く、白根 3 山、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳等が明るい日差しの中から遠望することが出来た。

新穂高ロープウェイ駐車場から右俣谷に白く、大きな砂防ダムが見える。.

新穂高温泉キャンプ場で 1 晩をテントで過ごし、1 日に槍平へ荷揚げの予定が、土砂でキャンプ場は閉鎖、案内所の紹介で、中尾温泉の民宿たきざわに素泊まりをお願いする。宿から錫杖岳が正面に見え、クリヤ谷から笠が岳へ連なる稜線が尾根に消える



中尾温泉から錫杖岳

(1)

5月1日 (土) 晴

行動 民宿たきざわ 5:24=5:30 ロープウェイ駅 (登山指導センターに入山届提出)

6:25-右股林道ゲート 6:41-6:53 休憩 7:00-7:30

穂高平小屋 7:43-8:12 休憩 (鳥切さんスキー履く) 8:30-9:04 白出沢

(林道終点) 9:17-9:48 休憩 9:57-10:30 休憩 10:40-11:40 休憩-

11:53-滝谷出合 12:00-12:30 休憩 12:40-13:11 南沢 13:25-13:30

槍平 (標高 1 9 9 1 m) テント設営終了 14:15 (泊)

新穂高ロープウェイ駐車場から、右俣林道に入る、

ゲートまで残雪の山が2か所ありゲート迄、車で入る事は出来ないと知る

錫杖岳と奥丸山の上から白銀に輝く峰の向こうには、笠が岳の稜線に雪庇が

黒い影を落としている、

穂高平小屋で一休み、しばらく林道を辿ると雪道に変わってきた、鳥切さんはスキーを履く。

柳谷は雪代で橋が露出している。単調な林道を辿り、木橋を過ぎると白出沢出合に出る。

白出沢で水補給、これから樹林帯の中をアップダウンしつつ右俣谷に沿って

高度を稼いでゆく、チビ谷、滝谷の扇状地はでぶりで歩きにくい。



滝谷出合

滝谷につられるよう沢筋から離れ、50メートルほど登り過ぎ、トラバースし谷に戻る、30分ほどロスした様だ、午後になると雲が湧いてくる。

雪の笠が岳と滝谷の岩稜を見つつ、足を運ぶ。

南沢は高度計が1970メートルを指している、樹林帯の奥から発電機らしいエンジン音が聞こえ、槍平小屋までもう一息だ。

槍平小屋は雪おろしの最中で1階は雪に埋もれ、雪崩の風圧で外壁が壊されたと情報、

ブルーシートで壁が覆われている。小屋から100メートル程上流の左岸樹林の近くにテントを張る。休憩中に飛行機のエンジン音が聞こえ、見上げると涸沢岳と蒲田富士の間を軽飛行機が旋回している。グライダーが稜線を涸沢方向に越えていくのが見え、目の錯覚かと疑う。夕焼けの稜線を見ていると、何時までも飽きない、明日に備え早寝をきめこむ。隣のテントは女性を含む中年パーティで賑やかだ。



テントを張り終えて

5月2日 (日) 晴

行動 槍平 6:00-6:50 休憩 (標高2300m地点) 7:10-8:20 休憩

8:30-9:20 休憩 9:35-9:50 飛騨乗越 10:00-10:20

槍ヶ岳山荘 11:50- (3回程休憩) 14:30 槍平 (泊)

6時前に先行するパーティが3組、私達も後を追いつ発、登山日和に恵まれた日を期待する。日の出前の雪原はアイゼンがよくきく、荷が軽く昨日と大違い出足は快調この調子で槍に着けばよいが、中崎尾根の稜線が何時の間にか見下ろす高さまで登って来た、尾根から西側に雪庇がせり出し、飛騨沢の雪面に吸収される尾根の上に数人のパーティが休んでいる、

大喰沢を越えると飛騨沢の斜面が大きく広がり、左の西鎌尾根に特徴のある偽槍が黒い岩肌を見せ、右には大喰岳から急斜面が輝いて見える。

ここは2700メートル付近か、稜線の左に槍ヶ岳山荘が小さく見える。35度近い急斜面だ



飛騨乗越へ急斜面を登る

クラスト混じりの雪面を飛騨乗越へ、稜線へ出たとたん強風にさらされ急いでジャケットを着込む、左から尾根を越えると、ひょっこり槍が岳山荘が見えた。



槍が岳

北鎌尾根を登攀終えたか、大きなザックを背負った2人が穂先に見える、
槍沢を見下ろすと、蟻の子のように登山者が列をつくって登ってくる。
強風と疲れと行列のため槍の穂先に登ることを諦め
槍ヶ岳山荘で休憩、カップラーメンで腹ごしらえ、
ゆっくり休んでしまった、下山を11時半ころにきめ、小屋を出ると全く風が無い
着いた時とは大違い、早々にジャケットをザックにしまう、



槍ヶ岳山荘より飛騨沢へ滑降前の鳥切さん

鳥切さんはスキーを履き、稜線から飛騨沢を一気に滑り降りる
大和さんと横山はてくてくと、雪がゆるんだ2700メートル付近からはアイゼンを外し
ツボ足で靴を潜らせ無風の飛騨沢を降りる、運動不足で腿が疲れる明日まで持つか



飛騨沢を下る

スキーで登る数人のグループと行き違い、春の飛騨沢はバックカントリーのメッカと
改めて知る。
中崎尾根が高くなるとテントは近い、先に降りた鳥切さんがお茶を沸かし待っててくれた。
テントで休憩中、昨日に続きグライダーが涸沢岳の稜線から涸沢側に消えてゆく
涸沢岳の頂上に夕日があたる、明日もこの好天は続くのか
ばてて、明日西鎌尾根へ登るファイトが湧かない、槍へ登る目的は達成出来たので、
奥丸山への写真撮影もあきらめ、3日撤収と決める
燃料の残りを心配する必要も無くなったので、明朝の水を充分用意し、今日も早寝だ。

5月3日 (月) 快晴

行動 槍平 7:20-8:00 滝谷出合 8:10-8:43 休憩 8:50-堰堤 9:23-9:30

白出沢 9:50-林道に出る 10:20-10:57 穂高平小屋 11:10-ゲート

11:50-ロープウェイ駅 12:03-登山指導センター(下山届提出) 12:10-12:17

駐車場 12:41-13:00 平湯の森温泉 14:30-15:35 出光ガソリンスタンド(給油)

15:53=長野道松本 I C 15:55=17:20 双葉 S C 17:55=相模湖 I C 20:15=

小田急本厚木駅南口 21:25=大和宅 22:15=22:25 鳥切宅

(横山は本厚木駅より小田急渋沢駅へ 21:45 自宅着)

今日も好天、南東にモルゲンロートの涸沢岳と西の中崎尾根は未だ日が当たらない
東に流れる薄雲の動きが早い、稜線は風が強いだろうな、
疲れた足も下山となれば、何となく楽になる感じ、
南沢、滝谷とトレースを辿り、沢沿いに下る、樹林帯で雪の穴に足を取られ
半身が雪に埋まる、ザックを外し事なきを得た、突然見えなくなったので、
なにが起こったかと、二人をびっくりさせてしまった。
白出沢出合いより下り過ぎたか50メートル程登り返し、林道に出る。
鳥切さんはスキーを履き、快調に先行する。



林道でスキーを脱ぐ

林道も柳谷近くから土が路端に見え始め、雪解けの早さを知る、穂高平小屋で休憩、
1時間程で新穂高温泉に着く予定だ、お土産の露のトウを摘みながら右俣林道に堰堤が
が見え、ゲートを抜けると程なくロープウェイ駅に出る。下山届を提出して山行は終わった。
剥けはじめた鼻の頭に平湯温泉の湯が沁みる、明日から顔も剥けるだろう。野麦街道は
稲核ダムの下からヤマザクラが満開、新島々の河原には山吹が黄色い花を咲かせ、雪の
世界と季節の差を感じる、満足感いっぱいの山行だった。

後記

ゴールデンウィークは天候に恵まれ、晴天が続く1週間であった

4月17日の丹沢表尾根ハイクで足にマメができ、四十数年のブランクがある
春山山行で、アイゼンを履き、20キロの荷を背負って槍平まで登れるか危惧したが、
二人に助けられ、テント生活と槍ヶ岳まで登ることができた。

四十数年前の5月、春山合宿で、岳沢から天狗の科尔、ジャンダルム、奥穂高岳を越え、
北穂高岳の松涛岩にテントを張った日は、猛吹雪で山稜も谷も記憶が無い。

5月の山は荒れれば冬山と忘れられず、今年の5月はラッキーの一言に尽きる。

今回の山行を前に一週間ほど20キロ背負い、近所の山を往復したが腿の痛みに負け、
3日に予定した中崎尾根を諦めてしまった、長く山と付き合うためには我家から歩いて、
大倉尾根を往復し鍛え直さねばと思う山行であった。

以上